

## 留学先：ハンブルク大学

氏名：山本彩乃（留学時：教育地域科学部地域科学課程 4年）

留学期間：2017年10月～2018年3月（5ヶ月）



交換留学を希望した動機	ドイツ語能力の向上のためというのと、卒業論文でドイツについて書きたいと考えていたので、そのための資料収集。また日本から離れ、日本とは違う考え方や文化に直に触れてみたいと思い留学を希望しました。
留学先を決めた経緯	ドイツ語を勉強していたことと、ドイツの歴史に興味を持っており、今後の卒業論文に役立つような資料をドイツで探してみたいと思い、決めました。また、以前ハンブルク大学で行われたサマースクールに参加しており、親しみがありました。
留学先の大学について (特徴や紹介したい特色)	<p>日本学科があり、日本に興味がある学生が多くいます。日本学科の学生たちとの交流のチャンスは多くあり、すぐに仲良くなれます。ハンブルク大学で盛んに行われているタンデムというお互いの母国語を教え合う勉強法は、互いの国の文化について話し合えると同時にスピーキング力とリスニング力を身に付けることが出来るのでとてもおすすめです。</p> <p>ハンブルク大学にはドイツ人学生以外にも様々な国の学生が集まっています。ドイツ語などの語学の授業では国籍だけでなく、勉強していることも様々な学生と一緒に授業を受けることができます。</p>
留学先で履修した科目や 学習等	ドイツ語 "Alles klar? - Deutsch für Fortgeschrittene" A1.2 "Verbale Werkzeugkiste für den Alltag" A2 "Kommunikation im Alltag – Sprechen und Hören" A2 "Deutsche Grammatik in Wort und Schrift" A2
あなたの留学先へ交換留学 を考える福井大学生への メッセージ	私は留学当初、ドイツ語も英語も挨拶と自己紹介程度しか話せませんでした。その為に寮のルームメイトやドイツ語のクラスメイトとうまくコミュニケーションが出来ずとても苦労しました。なので英語はもちろん、ドイツ語も留学前にしっかりと勉強しておきましょう。しかし、語学に自信がなくとも一生懸命伝えようとすれば相手も理解できるよう真剣に聞いてくれます。理解されるのをあきら

	<p>めないでください。</p> <p>また、基本的なことですが、日本で出来ることは日本でやっておきましょう！私は現地についてから、日本で発行すべき書類がいくつもある事が分かりました。その為に手続きが遅れていつまでたっても心労が尽きない時期がありました。なので例えば現地で保険加入するときに、どんな書類が必要なのだとか、できる限り調べていった方がいいと思います。もちろん現地ではチューターという日本語が巧みなハンブルク大学生が付いているので調べて分からなくても全く問題ありません。しかし、少しでも事前に調べておくと、役立つ情報が見つかるかもしれませんよ！</p>
--	---

### 【交換留学の成果について】

私はこの交換留学にあたって、3つの目標がありました。第1の目標は、ドイツ語能力を向上させること。第2の目標は現在ドイツ史に興味があるので、現地で資料を集め、研究すること、そして第3の目標は日本とは違う考え方や文化に直に触れて国際的な視点をもつことでした。

1つ目の目標である、ドイツ語能力の向上というのは達成できたと思います。それは授業を受けていると実感することが出来ました。授業開始当初は、先生が何をしろと言っているのかまるで分からず、隣のクラスメイトに教えてもらっていました。酷いときはクラスメイトの英語も聞き取れずしどろもどろしているうちに授業が進むことがありました。しかし授業が終わるころには先生の指示は大体理解することが出来、クラスメイトともドイツ語で話すことが出来る様になりました。タンデムパートナーとの話し合いでも、最初は相手に日本語で話してもらってばかりだったのですが、少しずつドイツ語で返答出来たり、ドイツ語で話しかけられても理解が出来る様になりました。またドイツ国内を旅行中にもレストランでスムーズに注文したり、地元の人に道を教えてもらう事が出来るなど、留学前よりのドイツ語を話すことに慣れたように思います。まだドイツ語検定など、数値で成長を確かめる事は出来ていませんが、近いうちに受験をし、目に見える形で証明できるようこれからもドイツ語の勉強に励みたいです。

2つ目の目標である資料収集は、納得が行くほど行うことが出来ませんでした。私はドイツ史の特にプロイセン史に興味がありました。ドイツなら、プロイセン史についての本が日本よりも豊富で多くの資料が手に入ると考えていました。なぜできなかったかという、ひとえに私のドイツ語能力不足でした。上記した通り、留学当初は授業についていくのがやっとで、時間があるときは主に授業の復習をしていました。留学する前にある程度のドイツ語能力を身に付け、自身に余裕があったならば、もう少し納得が行く資料収集が出来たのかもしれない。

3つ目の目標である、日本とは違う考え方や文化に直に触れて国際的な視点をもつことは、達成できたと感じています。私はせっかくドイツに来たのだから、ドイツの文化を体験してしたり、現地の学生とたくさん話してみたいと考えていました。それを叶えてくれたのは、タンデムパートナー達でした。彼らは私を色々なことに誘ってくれました。例えば一緒にDOM（移動式の遊園地）に行ったり、夕飯を食べたり、大みそかを一緒に過ごしたりしました。その際にドイツではやっている事や、テレビ番組、音楽など様々なことを教えてもらいました。彼らは積極的に私を輪の中に入れてくれました。私の留学生活は、彼らのおかげで楽しく過ごせたと言っても過言ではありません。正直、留学前に私が一番心配だったことは、人間関係でした。内向的で、口下手な方なので、同じ日本人留学生とも仲良くなれるのかとても不安でした。しかし彼らが色んな所に誘ってくれたおかげで、他の日本人留学生との話すきっかけを作ることが出来ました。彼らとはまた、彼らが日本に留学してきた時に遊ぼうと約束をしています。その日が今からとても待ちどおしいです。



→DOMにて

また、留学して大切さに気付き、そして身についたことがあります。それは挨拶です。私は挨拶やお礼などというのが苦手な人間でした。それはタイミングが分からなかったり、一度会った知り合い程度で挨拶しても変じゃないかなど変に気をもんでしまい、言えませんでした。しかしドイツでは挨拶は基本です。店に入るときも店員さんに一言挨拶をして、商品を見ます。買うときも一言挨拶をして買います。話したことないクラスメイトでも、挨拶だけは会ったら必ずします。更には知らない人でも同じ寮に住んでいるだけで挨拶をします。最初は相手に挨拶されたから自分もする、という事が多かったのですが、だんだんと自分からできる様になりました。



→クリスマスマーケットでは、知らないおばさんと一緒にご飯を食べたりしました。楽しかったです。

留学当初私は、ドイツ語能力が周りに全くついて行けず、その為に心に余裕もなく、しかも日本人留学生とも会うタイミングがなく一人悩んでいる時期がありました。授業もついて行きづらく、行きたくない心を引きずりながら通っていました。しかし、この憂鬱な気分にもたなるのだろうかとなってきた授業で力をもらえる時が何度もありました。それは、クラスメイトとの交流です。一度ペアワークで一緒になったただけなのに笑顔で挨拶してくれて、そのまま一言二言話す事がとても嬉しく、留学生活頑張っ生きて抜こうと行動力が湧いてきました。挨拶は、相手を認識しているよっていう合図なのだと感じました。また、自分はここにいるよという合図でもあると思います。この合図を

してくれるとすごく安心しますし、合図をくれる人に好感も持てます。私は無視をされたり、忘れられたりすることにすごく敏感で、すごく傷ついた過去があります。けれどもそれは、私が相手を認識しないから、相手も私を認識しないのだとようやく気付くことが出来ました。今回の留學生活で、色んな人が私のことを私が相手を認識する前に気づいてくれました。だから結果的に留學先で友達が出来ました。きっかけをくれたのはいつも向こうの方でした。私が楽しく留學生活を送れたのは、周りの人たちがいい人ばかりだったからです。留學生活を振り返ると、自分の成長を感じるよりも、周りの人達への感謝の気持ちがはるかに大きいです。だから私も、きっかけを作れるような人間になっていこうと思います。与えられる立場から、今度は与える立場になっていきたいです。留學は、私の目指すべき人間像を明確化してくれました。私は大きく成長できたとはとても言えません。ですが、大きく成長するための確かな一歩を、この留學生活で踏み出せたのではないかと思います。



→ポーランドのマルボルク城にて

休暇中には、ドイツだけでなく、イタリア、ポーランド、デンマークなど近隣の国に旅行に行くことが出来ました。教科書でも見たことある絵画や、アウシュビッツ強制収容所など歴史的に重要な場所などを実際に行って見ることが出来、机の上で学ぶ以上のことを学ぶことが出来たと思います。



→ホーエンツォレルン城は長年の憧れの場所でした。

将来は、海外でも活躍できるような企業に勤め、日本だけにとらわれずに、様々なことにチャレンジできる立場まで上り詰めたいです。また、そのような企業に勤めることが出来なかったとしても、NPO 団体などに所属し、ドイツと日本、どちらにも有益になるような活動を行えるようになりたいです。その為にも今後も英語とドイツ語の勉強を続け、またドイツで手に入れた資料を基に、学業に励んでいきます。